

第5次尼崎市総合計画
後期まちづくり基本計画
期間のまとめ

まちの通信簿

総括版

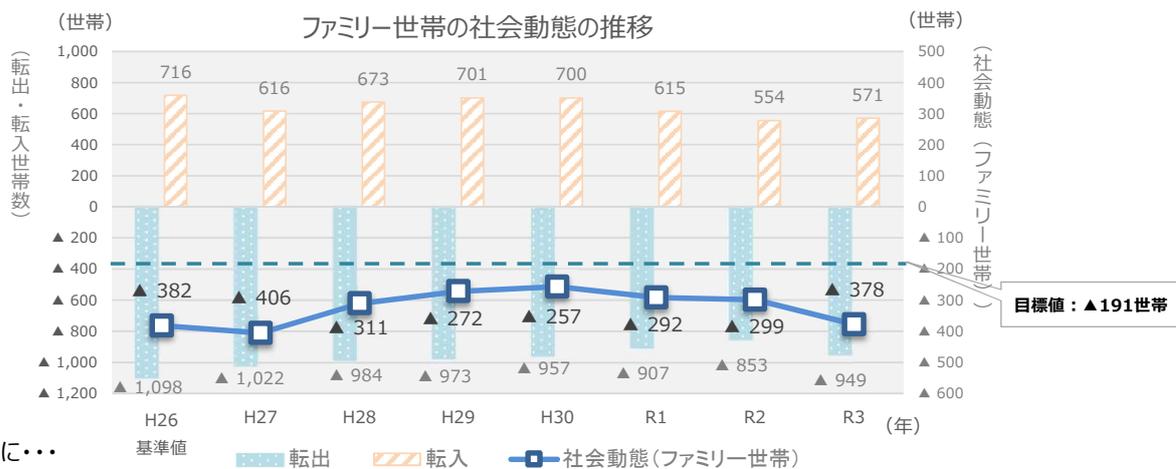


現総合計画後期まちづくり基本計画(計画期間:H30-R4)のまちづくりについて、その経過が分かるよう、これまで作成した各年度の「まちの通信簿」をまとめ、「まちの通信簿 総括版」を作成しました。

総合指標の推移

■ あまがさきで子どもを育てる人を増やす

ファミリー世帯(5歳未満の子どもがいる世帯)の転出超過傾向は、本市の最重要課題の1つです。課題解決に向け、教育や治安・マナーの向上などに取り組み、まずはその超過世帯数の半減をめざします。(令和4年に191世帯)

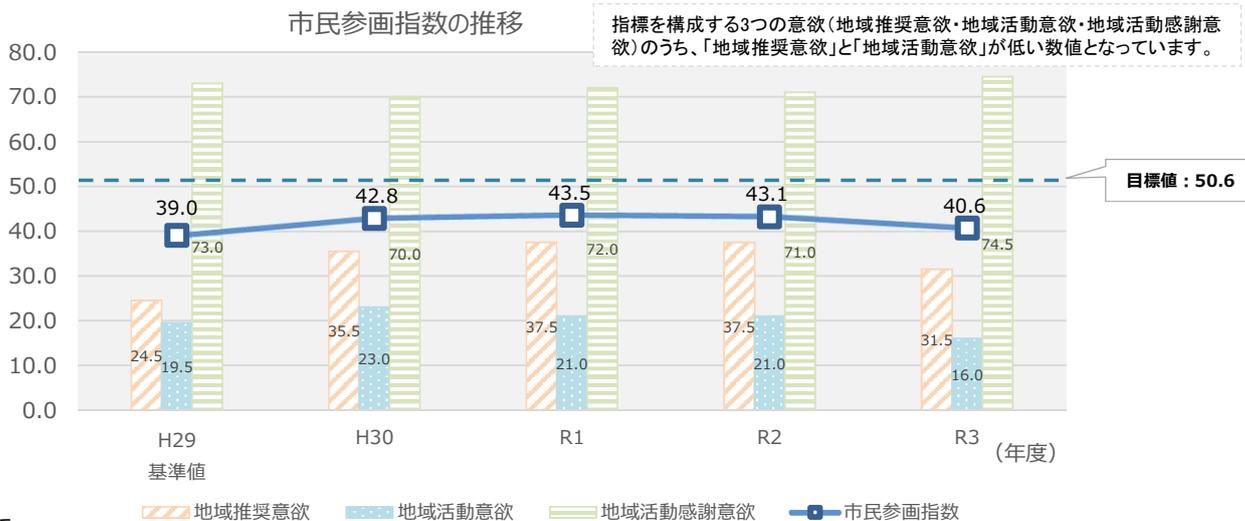


計画期間中に...

アンケート結果などから、ファミリー世帯の転出理由は、まちのイメージ、教育環境、治安、マナーなど様々な課題が複合的に作用した結果により生じていることから、課題に対して総合的に取り組むことで、転出超過数の解消に向けて取組を進めてきました。
その結果、転出数は着実に減少傾向にあるものの、転入数がそれ以上に減少し、依然として転出超過が継続しています。

■ まちのことを想い、活動する人を増やす

今後のまちづくりには、自分もまちの一員としてまちづくりに参画する人、また、その活動に感謝する人、まちの魅力を伝える人を増やすことが重要です。まちに「誇り」と「愛着」を感じ、「まちのことを想い、活動する人」があふれるまちをめざします。(令和4年度に50.6)



計画期間中に...

まちに愛着を持つといった「地域推奨意欲」が高めることが、まちの活動に参加しようという「地域活動意欲」につながることから、本市の文化や歴史、住みやすさを再認識できるよう情報発信やまちの良さを実感できるような機会の創出に取り組んできました。
しかしながら、「地域活動感謝意欲」と比べ、「地域推奨意欲」と「地域活動意欲」が低く、継続した取組が必要です。

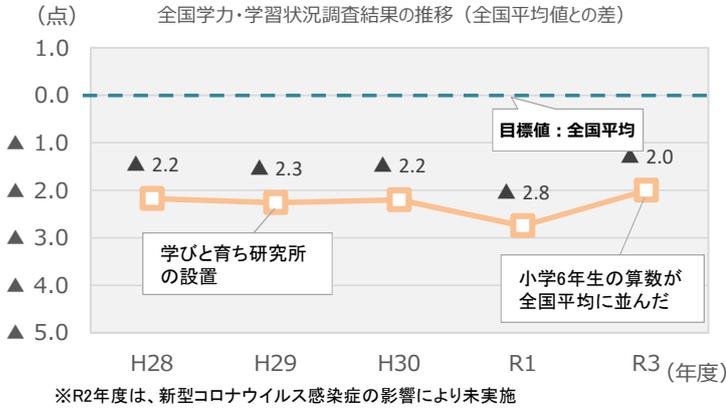
主要取組項目 ことの指標の推移

主要取組項目 1

人の育ちと活動を支援する

子どもたちの学力を伸ばしたい

全国学力・学習状況調査における平均正答率の全国との比較において、あまがさきの子どもの学力が全国平均を超えることをめざします。(令和4年度)

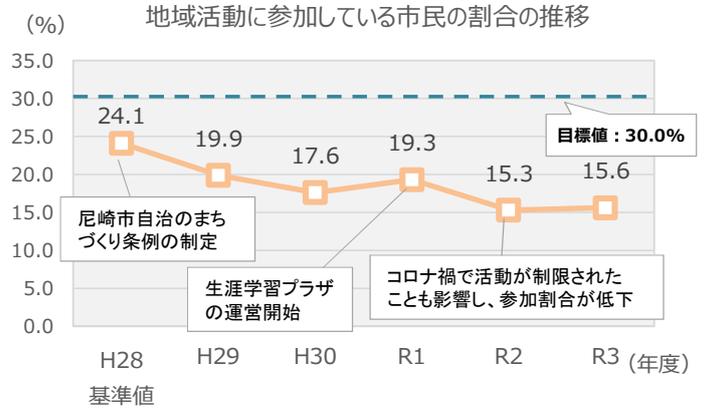


計画期間中に...

学力の向上に向け、子ども一人ひとりの状況に応じ、つまづきに対して早期に対応するなど取組を推進してきました。
その結果、令和3年度の全国学力・学習状況調査において、小学校6年生の算数が、全国平均値に並びました。

地域活動を活発にしたい

市民意識調査で「地域活動に参加している」と回答する割合30.0%をめざします。(令和4年度)



計画期間中に...

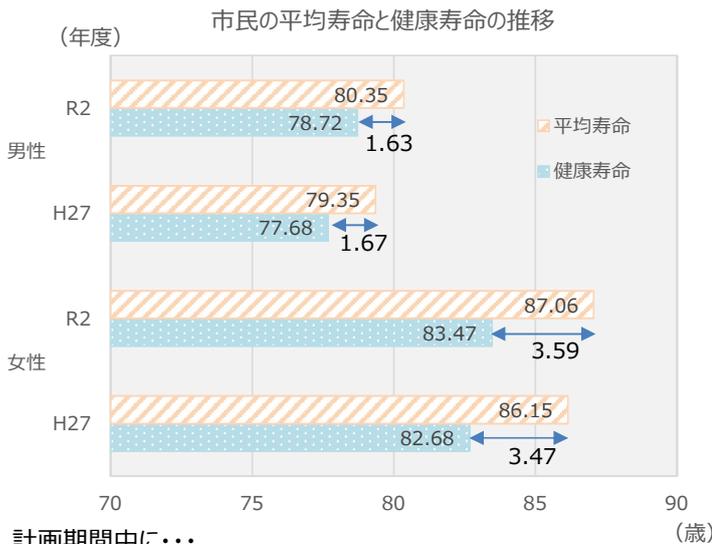
平成28年度に「尼崎市自治のまちづくり条例」を制定し、また、令和元年度に生涯学習プラザを整備し、学びの機会の充実や活動の創出などに取り組んできました。
しかしながら、コロナ禍で活動が制限されたことも影響し、地域活動への参加割合は減少傾向にあります。

主要取組項目 2

市民の健康と就労を支援する

健康寿命を伸ばしたい

平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加をめざします。(令和4年度)

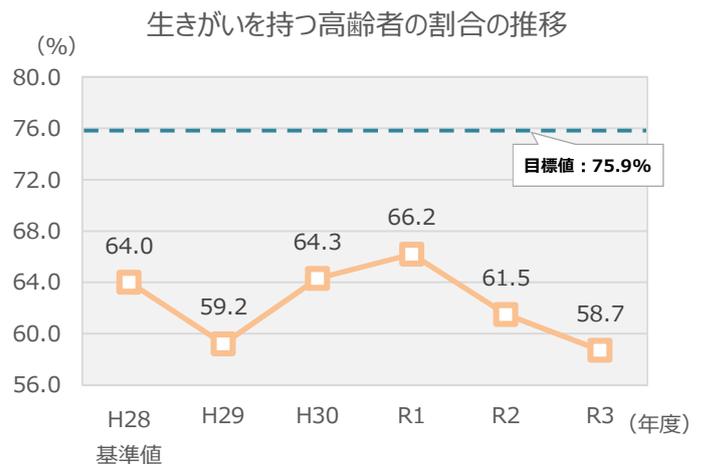


計画期間中に...

健康寿命の延伸のため、生活習慣病予防・重症化予防の取組などヘルスアップ尼崎戦略事業を推進するとともに、「未来いまカラダポイント事業」に取り組むなど、市民・事業者等と連携し健康づくりに取り組んできました。
その結果、健康寿命は男女とも伸びているものの、女性は平均寿命と健康寿命の差が広がっています。

「生きがい」を持って暮らす高齢者を増やしたい

市民意識調査で「生きがいを感じることもある」と回答する割合75.9%をめざします。(令和4年度)



計画期間中に...

高齢者が自分らしく健康的な生活を継続できるよう、「いきいき百歳体操」や「高齢者ふれあいサロン」などの介護予防活動や社会参加の促進に取り組んできました。
しかしながら、新型コロナウイルス感染症が蔓延して以降、生きがいを持つ高齢者の割合が減少傾向にあります。

主要取組項目 3 産業活力とまちの魅力を高める

■ まちに訪れる人を増やしたい

尼崎城再建を契機にした、地域一体となった「観光地域づくり」の取組により、イベントや観光等でまちを訪れる人を280万人に増やします。(令和4年度)

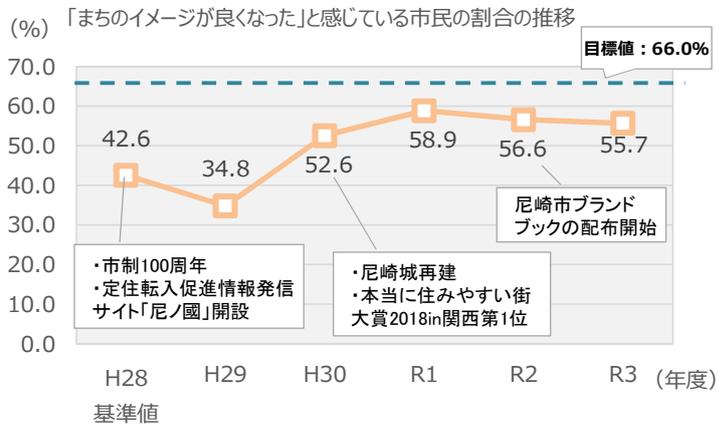


計画期間中に・・・

あまがさき観光局を核として、尼崎城を含む阪神尼崎駅周辺のエリアを重点的に観光地域づくりの取組を進めてきました。
しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響による行動制限などにより、観光客数は大きく落ち込んでいます。

■ まちのイメージを良くしたい

市民意識調査で「尼崎市のイメージが良くなった」と回答する割合66.0%をめざします。(令和4年度)



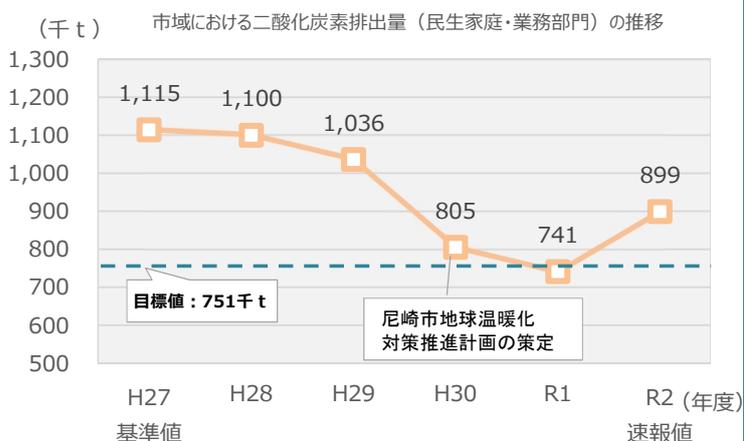
計画期間中に・・・

まちへの誇りと愛着を高めるために、まちの魅力向上や課題解決の取組と、それらの情報を戦略的・効果的に発信する取組を一体的に行う尼崎版シティプロモーションを推進してきました。
その結果、アンケート調査において、「まちのイメージが良くなった」と感じている市民が半数を超える状態が継続しています。

主要取組項目 4 まちの持続可能性を高める

■ 二酸化炭素排出量を減らしたい

再生可能エネルギーの導入、省エネルギー対策など、誰もが実施できる取組の推進により、市内の二酸化炭素の排出量(民生家庭・業務部門)を751千tに減らします。(令和12年度)

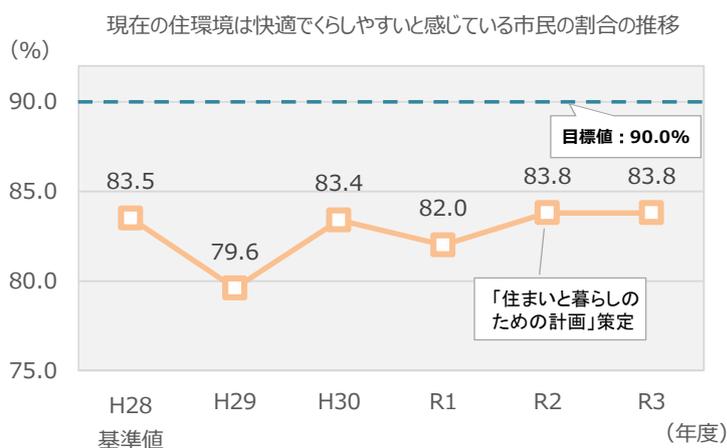


計画期間中に・・・

環境モデル都市としての経験を活かし、経済成長と二酸化炭素排出抑制の両立に取り組んできました。
その結果、二酸化炭素排出量は減少傾向にありましたが、令和2年度速報値では新型コロナウイルス感染症の流行による外出自粛等により、排出量の増加となりました。

■ 快適に暮らせるまちにしたい

市民意識調査で「現在の住環境が暮らしやすい」と回答する割合90.0%をめざします。(令和4年度)



計画期間中に・・・

より良い住環境の実現をめざし、従来からのハード整備の視点に加え、くらしというソフトの視点を取り入れた「住まいと暮らしのための計画」を策定し、取組を進めてきました。
その結果、アンケート調査において、快適で暮らしやすいと感じている市民が高い水準で推移しています。

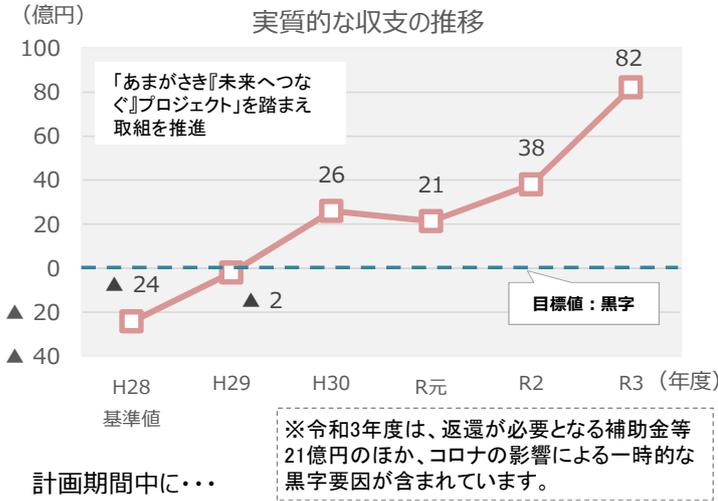
財政の指標の推移

財政

持続可能な行財政基盤の確立

■ 収支を黒字にできている

市の貯金である基金を取り崩すことなく毎年度収支均衡を確保できるよう、更なる構造改善に取り組みます。(令和4年度)



平成29年度の「あまがさき『未来へつなぐ』プロジェクト」の中間総括で、安定した財政運営維持のための財政規律及び財政目標を設定し、予算編成でこれらを遵守し、取組を進めてきました。
その結果、平成30年度から令和3年度まで4年連続で収支均衡を確保しています。

■ 借金を減らせている

必要な未来への投資と将来の負担のバランスを取りながら、着実に将来負担の抑制を進めます。(令和4年度に1,100億円以下)



毎年度プライマリーバランスの黒字を維持しながら、過去に財源対策として活用してきた退職手当債や行財政改革推進債等といった市債の早期償還に取り組んできました。
その結果、目標管理対象将来負担の残高は着実に減少傾向にあります。

まとめ

◆「人口」の視点から

本市の人口については、昭和46年をピークに、その後、減少傾向が続いていましたが、近年、住宅供給などにより、転入者数が転出者数を上回る社会増の状態が継続（平成28年から5年連続）するなど、改善傾向にあります。全国的な人口減少の流れを見据えつつ、引き続き、ファミリー世帯の定住・転入促進に取り組めます。

◆「学び」と「活動」の視点から

平成28年度に制定した「尼崎市自治のまちづくり条例」の理念に基づき、多様な主体同士の関係づくりや地域発意の課題解決、魅力向上に向け、地域振興体制の再構築に取り組んできました。引き続き、「市民参画指数」の推移などを踏まえるなかで、シチズンシップの向上とシビックプライドの醸成に向けた取組を進めます。

◆「行政運営」の視点から

総合計画と両輪となる行財政改革計画「あまがさき『未来へつなぐ』プロジェクト」に基づく取組を進めてきた結果、実質的な収支均衡、将来負担残高の減少など、着実に成果が上がっています。引き続き、複雑化する市民ニーズ等への対応や、行政サービスの質のさらなる向上に向けて取組を継続します。

あなたの評価を教えてください。



評価欄

総合計画、1～16施策のマスタープラン等の詳細は、尼崎市役所のホームページをご覧ください。

尼崎市 市の計画



尼崎市 市の計画
ホームページ